

◆ 駅周辺における帰宅困難者の行動の流れ (イメージ) 発生～帰宅まで



駅・集客施設・大型店等

① 駅や集客施設に多数発生した帰宅困難者



駅で鉄道の運行情報等を流す。(案内板ディスプレイや駅員からの構内放送等)

② 駅で情報をとる人



③ 駅やその場に留まる人



混乱防止のため、その場に留める。

駅員 (店員) からの誘導や情報提供を受けて移動

一時滞在施設 (指定施設 (大学・ホール))

④ 帰ることをあきらめて周辺の一時的滞在施設に避難する人



帰宅をあきらめて一時的に避難してきた人を受け入れ、最低限の支援を行う。(概ね 24 時間)

自己判断により徒歩等により帰宅 (当日)

徒歩等による帰宅 (翌日)

一時滞在施設に収容しきれなかった人が移動 (当日)

一時滞在施設閉鎖後も帰宅が困難な人が移動 (翌日)

必要に応じて

市指定避難所 (学校・公民館)

⑤ 一時滞在施設に収容しきれなかった人や、24 時間以上経過し、一時滞在施設閉鎖後も帰宅が困難な人



数日が経過しても帰宅が困難な方を受け入れ、避難してきた地域住民と同様に支援を行う。

一時滞在施設 (指定施設 (ホテル))

⑥ 妊婦や子ども、高齢者等の特別な支援が必要な人



一般の方と同じ環境での一時滞在が困難な方を受け入れる。

⑦ 徒歩で帰宅する人



自らの判断により徒歩で帰宅する方へ必要な情報を提供する。(経路図等)

公共交通機関が運転再開により帰宅する。  
運転再開の見通しが立たない場合は何らかの手段で帰宅する。

■ 帰宅困難者への対応が完了 (概ね 1 日～3 日間) ■